

アナリスト レポート

一部で堅調な動きはあるものの、
足もとでは弱さがみられる

県内景気 天気図

現在の景気



生産活動



個人消費



民間設備投資



住宅投資



公共投資



雇用情勢



3か月後の景気



凡例

- 晴れ 晴れ一部曇り
- 曇り 曇り一部雨
- 雨

前月比

- 上昇・好転 横ばい
- 下降・悪化

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、化学や輸送機械などで上昇したものの、生産用機械や汎用・業務用機械などで大幅に低下したため、前月比では2か月ぶりに低下した。

需要面では、百貨店・スーパー販売額を全店ベースで見ると、ウエイトの高い飲食料品が2か月連続で増加したものの、衣料品をはじめほとんどの品目で減少したため、全体では4か月連続で減少している。大型専門店などの他の小売業態では、ドラッグストアが3か月連続で増加し、コンビニエンスストアも2か月ぶりに増加したものの、家電大型専門店とホームセンターはともに4か月連続で減少しているため、小売業6業態計の売上高は4か月連続で前年を下回っている。また、乗用車の新車登録台数と軽乗用車の販売台数ともに5か月連続で減少。さらに、民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は、鉱工業用が3か月連続で増加しているものの、商業用とサービス業用が2か月連続かつ大幅に減少したため、3業用計では2か月連続で大幅に減少した。一方、新設住宅着工戸数は、持家が2か月ぶりに大幅減少したものの、貸家と分譲住宅がともに2か月連続で大幅増加したため、全体では2か月連続で大幅に増加した。また、公共工事の請負金額は6か月連続で大幅に増加している。雇用情勢をみると、有効求人倍率は2か月連続で低下し、常用雇用指数は2か月ぶりに低下したものの、製造業の所定外労働時間指数は12か月連続かつ大幅に低下している。今後の動向を注視する必要がある。

当社が2月に実施した「県内企業動向調査」によ

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、基調としては緩やかに拡大しているものの、足もと、新型コロナウイルスの影響から弱めの動きがみられている。

需要面をみると、個人消費は、雇用・所得の改善に支えられて、基調としては緩やかに増加しているものの、足もとでは、新型コロナウイルスの影響等により弱めの動きとなっている。観光は、足もと、新型コロナウイルスの拡大の影響により大きく減少している。設備投資は、高水準の企業収益を背景に、新製品対応投資や改装投資等を中心に、着実に増加している。住宅投資は、分譲は増加傾向にあるものの、貸家や持家に弱めの動きがみられていることから、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、災害復旧関連工事や高速道路建設工事を中心に増加している。もっとも、生産は、IT関連需要の鈍化や中国経済

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

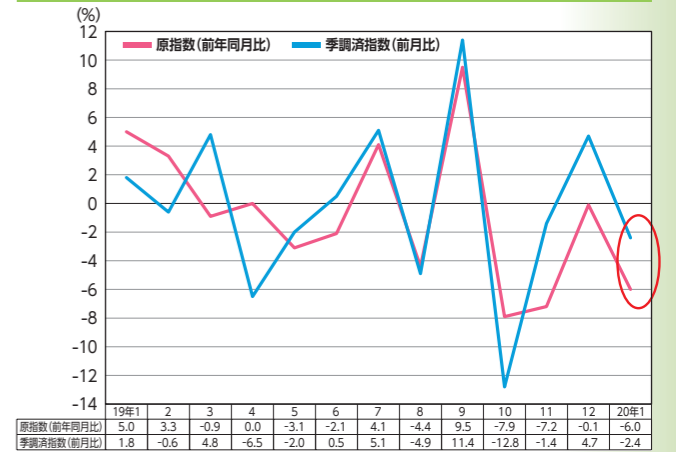
「鉱工業生産指数」の前月比は

2か月ぶりに低下

- ・鉱工業生産指数(2015年=100)の「原指数」(2020年1月)は93.1、前年同月比-6.0%となり4か月連続で低下し、「季節調整済指数」も103.7、前月比-2.4%となり、2か月ぶりに低下した。季調済指数の3か月移動平均値(19年12月)は103.8、前月比+0.3%で4か月ぶりに上昇したが、これは12月単月の増加(同+4.7%)の影響とみられる。
- ・業種別季調済指数の水準は、「化学」(137.4)や「汎用・業務用機械」(109.0)、「生産用機械」(105.4)などは高水準で推移。一方、「電子部品・デバイス」(60.2)や「金属製品」(78.4)、「窯業・土石製品」(88.5)などは低水準。
- ・前月との比較で、高ウエイトで上昇したのは「化学」(前月比+11.3%、なかでも化粧品)、「輸送機械」(同+5.8%、同自動車部品)など。一方、低下したのは「生産用機械」(同-40.5%、同半導体・フ

ラットパネルディスプレイ製造装置、機械工具)、「汎用・業務用機械」(同-8.8%、同運搬装置、計測機器)など。

鉱工業生産指数の推移(滋賀県、2015年=100)



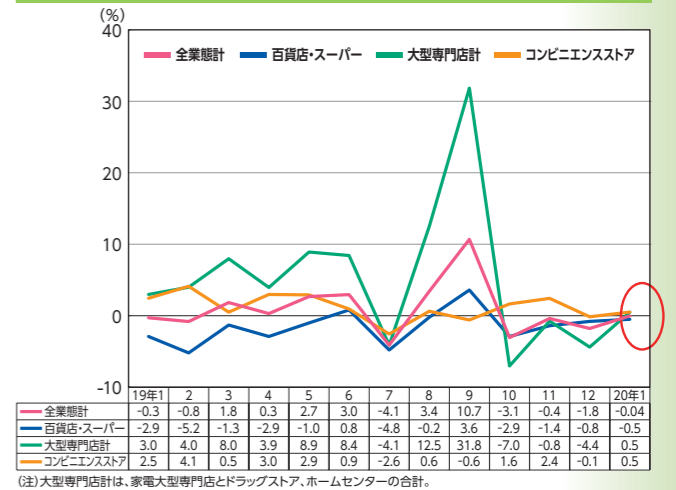
「小売業6業態計売上高」は

4か月連続で減少

- ・「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は99店舗)」(20年1月)は、23,373百万円、前年同月比-0.5%となり4か月連続で減少。品目別では、ウエイトの高い飲食料品は2か月連続で増加(同+0.3%)したが、衣料品をはじめ他のほとんどの品目は減少した。「既存店ベース(=店舗調整後)」では3か月連続ですべての品目で減少しているため、全体では4か月連続で減少(同-3.8%)。
- ・大型専門店では、「ドラッグストア」(全店ベース=店舗調整前、1月、201店舗)は6,271百万円、同+6.5%で、3か月連続で増加。しかし、「家電大型専門店」(同42店舗)は3,540百万円、同-5.7%、「ホームセンター」(同63店舗)は2,745百万円、同-3.7%となり、ともに4か月連続で減少。一方、「コンビニエンスストア」(同564店舗)は9,185百万円、同+0.5%で2か月ぶりに増加。
- ・これらの結果、小売業6業態計売上高(1月)は、45,114百万円、同-0.04%となり4か月連続で減少している。一部で消費税率引き上げ後の反動減が長引いているものと考えられる。
- ・「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」(2月)は「普通乗用車(3ナンバー)」が5か月連続で減少しているのに加え(1,695台、

同-8.2%)、「小型乗用車(5ナンバー)」も5か月連続で減少しているため(1,365台、同-7.7%)、2車種合計でも5か月連続の減少となっている(3,060台、同-8.0%)。「軽乗用車」も5か月連続かつ大幅減少(2,060台、同-14.7%)。昨年10月から前年比減少が続いていることから、消費税率引き上げ後の反動減が長引いているものと考えられる。

百貨店・スーパー、大型専門店、コンビニエンスストアの小売業態別販売額(前年同月比)



「新設住宅着工戸数」は

2か月連続で大幅増加

- ・「新設住宅着工戸数」(20年2月)は652戸、前年同月比+16.2%で、2か月連続で大幅増加した。利用関係別では、「持家」は288戸、同-14.5%で、2か月ぶりに大幅減少したものの(大津市60戸など)、「貸家」は175戸、同+22.4%で、2か月連続で大幅増加(草津市58戸など)、「分譲住宅」も179戸、同+138.7%で、2か月連続で大幅増加した(大津市77戸など)。分譲住宅のうち「一戸建て」は7か月ぶりに増加(108戸、前年差+33戸)、「分譲マンション」も2か月連続で増加(71戸、同+71戸)。「給与住宅」は10戸(長浜市10戸)。
- ・新設住宅着工の「床面積」(2月)は、60,547㎡、前年同月比+5.5%で、2か月連続で増加。利用関係別では、「持家」は34,268㎡、同-17.9%で、2か月ぶりに大幅減少、「貸家」は8,505㎡、同+17.5%で、2か月連続で大幅増加、「分譲住宅」は17,435㎡、同+111.4%で、

2か月連続で大幅増加。

新設住宅着工戸数(利用関係別)

